

ID: 1598

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	是正命令		
法令名 根拠条項	駐車場法 第19条		
法令番号	昭和32年法律第106号		
【根拠条文】	<p>(是正命令)</p> <p>第19条 都道府県知事等は、路外駐車場の構造及び設備が第11条の規定に基づく政令で定める技術的基準に適合せず、又は路外駐車場の業務の運営がこの法律若しくはこれに基づく命令の規定に違反していると認めるときは、路外駐車場管理者に対し、その是正のために必要な措置をとるべきことを命ずることができる。この場合において、都道府県知事等は、路外駐車場の構造及び設備が当該路外駐車場の利用上著しく危険であると認めるときは、当該是正のための措置がとられるまでの間、当該路外駐車場の供用を停止すべきことを命ずることができる。</p>		
【基準】	根拠条文に同じ。		
備考			
設定年月日	平成 28 年 4 月 1 日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 1642

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	認定集約都市開発事業の施行に係る改善命令		
法令名 根拠条項	都市の低炭素化の促進に関する法律 第14条		
法令番号	平成24年法律第84号		
<b>【根拠条文】</b> (改善命令) 第14条 市町村長は、認定集約都市開発事業者が認定集約都市開発事業計画に従って認定集約都市開発事業を施行していないと認めるときは、当該認定集約都市開発事業者に対し、相当の期限を定めて、その改善に必要な措置をとるべきことを命ずることができる。  <b>【基準】</b> 根拠条文に同じ。			
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 1643

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	集約都市開発事業計画の認定の取消し		
法令名 根拠条項	都市の低炭素化の促進に関する法律 第15条		
法令番号	平成24年法律第84号		
<b>【根拠条文】</b> (集約都市開発事業計画の認定の取消し) 第15条 市町村長は、認定集約都市開発事業者が前条の規定による命令に違反したときは、第10条第1項の認定を取り消すことができる。  <b>【基準】</b> 根拠条文に同じ。			
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 1648

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	低炭素建築物の新築等に係る改善命令		
法令名 根拠条項	都市の低炭素化の促進に関する法律 第57条		
法令番号	平成24年法律第84号		
【根拠条文】 (改善命令) 第57条 所管行政庁は、認定建築主が認定低炭素建築物新築等計画に従って低炭素建築物の新築等を行っていないと認めるときは、当該認定建築主に対し、相当の期限を定めて、その改善に必要な措置をとるべきことを命ずることができる。			
【基準】 根拠条文に同じ。			
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 1649

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	低炭素建築物新築等計画の認定の取消し		
法令名 根拠条項	都市の低炭素化の促進に関する法律 第58条		
法令番号	平成24年法律第84号		
【根拠条文】	<p>(低炭素建築物新築等計画の認定の取消し)</p> <p>第58条 所管行政庁は、認定建築主が前条の規定による命令に違反したときは、第54条第1項の認定を取り消すことができる。</p>		
【基準】	<p>根拠条文に同じ。</p>		
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 569

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	違反建築物の除却, 移転等の命令		
法令名 根拠条項	建築基準法 第9条第1項		
法令番号	昭和25年法律第201号		
【根拠条文】	<p>(違反建築物に対する措置)</p> <p>第9条 特定行政庁は, 建築基準法令の規定又はこの法律の規定に基づく許可に付した条件に違反した建築物又は建築物の敷地については, 当該建築物の建築主, 当該建築物に関する工事の請負人(請負工事の下請人を含む。)若しくは現場管理者又は当該建築物若しくは建築物の敷地の所有者, 管理者若しくは占有者に対して, 当該工事の施工の停止を命じ, 又は, 相当の猶予期限を付けて, 当該建築物の除却, 移転, 改築, 増築, 修繕, 模様替, 使用禁止, 使用制限その他これらの規定又は条件に対する違反を是正するために必要な措置をとることを命ずることができる。</p>		
【基準】	根拠条文に同じ。		
備考			
設定年月日	平成 28 年 4 月 1 日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 570

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	違反建築物の仮の使用禁止, 使用制限		
法令名 根拠条項	建築基準法 第9条第7項		
法令番号	昭和25年法律第201号		
<b>【根拠条文】</b> (違反建築物に対する措置) 第9条 7 特定行政庁は、緊急の必要がある場合においては、前5項の規定にかかわらず、これらに定める手続によらないで、仮に、使用禁止又は使用制限の命令をすることができる。			
<b>【基準】</b> 根拠条文に同じ。			
備考			
設定年月日	平成 28 年 4 月 1 日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 571

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	違反建築工事について緊急の必要のある停止命令		
法令名 根拠条項	建築基準法 第9条第10項		
法令番号	昭和25年法律第201号		
<b>【根拠条文】</b> (違反建築物に対する措置) 第9条 10 特定行政庁は、建築基準法令の規定又はこの法律の規定に基づく許可に付した条件に違反することが明らかな建築、修繕又は模様替の工事中の建築物については、緊急の必要があつて第2項から第6項までに定める手続によることができない場合に限り、これらの手続によらないで、当該建築物の建築主又は当該工事の請負人(請負工事の下請人を含む。)若しくは現場管理者に対して、当該工事の施工の停止を命ずることができる。この場合において、これらの者が当該工事の現場にいないときは、当該工事に従事する者に対して、当該工事に係る作業の停止を命ずることができる。			
<b>【基準】</b> 根拠条文に同じ。			
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日



ID: 572

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	著しく保安上危険な建築物等の所有者等に対する除却命令等		
法令名 根拠条項	建築基準法 第10条第2項		
法令番号	昭和25年法律第201号		
【根拠条文】	<p>(著しく保安上危険な建築物等の所有者等に対する勧告及び命令)</p> <p>第10条 特定行政庁は、第6条第1項第1号に掲げる建築物その他政令で定める建築物の敷地、構造又は建築設備(いずれも第3条第2項の規定により次章の規定又はこれに基づく命令若しくは条例の規定の適用を受けないものに限る。)について、損傷、腐食その他の劣化が進み、そのまま放置すれば著しく保安上危険となり、又は著しく衛生上有害となるおそれがあると認める場合においては、当該建築物又はその敷地の所有者、管理者又は占有者に対して、相当の猶予期限を付けて、当該建築物の除却、移転、改築、増築、修繕、模様替、使用中止、使用制限その他保安上又は衛生上必要な措置をとることを勧告することができる。</p> <p>2 特定行政庁は、前項の勧告を受けた者が正当な理由がなくてその勧告に係る措置をとらなかつた場合において、特に必要があると認めるときは、その者に対し、相当の猶予期限を付けて、その勧告に係る措置をとることを命ずることができる。</p>		
【基準】	根拠条文に同じ。		
備考			
設定年月日	平成 28 年 4 月 1 日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 573

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	危険建築物の使用禁止, 使用制限		
法令名 根拠条項	建築基準法 第10条第3項		
法令番号	昭和25年法律第201号		
<b>【根拠条文】</b> (著しく保安上危険な建築物等の所有者等に対する勧告及び命令) 第10条 3 前項の規定による場合のほか, 特定行政庁は, 建築物の敷地, 構造又は建築設備(いずれも第3条第2項の規定により次章の規定又はこれに基づく命令若しくは条例の規定の適用を受けないものに限る。)が著しく保安上危険であり, 又は著しく衛生上有害であると認める場合においては, 当該建築物又はその敷地の所有者, 管理者又は占有者に対して, 相当の猶予期限を付けて, 当該建築物の除却, 移転, 改築, 増築, 修繕, 模様替, 使用禁止, 使用制限その他保安上又は衛生上必要な措置をとることを命ずることができる。			
<b>【基準】</b> 根拠条文に同じ。			
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 574

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	私道の変更又は廃止の制限		
法令名 根拠条項	建築基準法 第45条第1項		
法令番号	昭和25年法律第201号		
【根拠条文】	<p>(私道の変更又は廃止の制限)</p> <p>第45条 私道の変更又は廃止によつて、その道路に接する敷地が第43条第1項の規定又は同条第3項の規定に基づく条例の規定に抵触することとなる場合においては、特定行政庁は、その私道の変更又は廃止を禁止し、又は制限することができる。</p>		
【基準】	<p>根拠条文及び法第43条第1項及び第2項の規定による。</p> <p>(敷地等と道路との関係)</p> <p>第43条 建築物の敷地は、道路(次に掲げるものを除く。第44条第1項を除き、以下同じ。)に2メートル以上接しなければならない。</p> <p>(1) 自動車のみ交通の用に供する道路</p> <p>(2) 地区計画の区域(地区整備計画が定められている区域のうち都市計画法第12条の11の規定により建築物その他の工作物の敷地として併せて利用すべき区域として定められている区域に限る。)内の道路</p> <p>2 前項の規定は、次の各号のいずれかに該当する建築物については、適用しない。</p> <p>(1) その敷地が幅員4メートル以上の道(道路に該当するものを除き、避難及び通行の安全上必要な国土交通省令で定める基準に適合するものに限る。)に2メートル以上接する建築物のうち、利用者が少数であるものとしてその用途及び規模に関し国土交通省令で定める基準に適合するもので、特定行政庁が交通上、安全上、防火上及び衛生上支障がないと認めるもの</p> <p>(2) その敷地の周囲に広い空地を有する建築物その他の国土交通省令で定める基準に適合する建築物で、特定行政庁が交通上、安全上、防火上及び衛生上支障がないと認めて建築審査会の同意を得て許可したもの</p>		
備考			
設定年月日	平成 28 年 4 月 1 日	最終変更年月日	平成 31 年 4 月 1 日

ID: 1007

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	既存の一の建築物について二以上の工事に分けて増築等を含む工事を行う場合の全体計画等における措置命令		
法令名 根拠条項	建築基準法 第86条の8第5項		
法令番号	昭和25年法律第201号		
【根拠条文】	<p>(既存の一の建築物について二以上の工事に分けて増築等を含む工事を行う場合の制限の緩和)</p> <p>第86条の8</p> <p>5 特定行政庁は、認定建築主が第1項の認定を受けた全体計画に従って工事を行っていないと認めるときは、当該認定建築主に対し、相当の猶予期限を付けて、その改善に必要な措置をとるべきことを命ずることができる。</p>		
【基準】	根拠条文に同じ。		
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 575

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	既存の一の建築物について二以上の工事に分けて増築等を含む工事を行う場合の全体計画等の認定取消し		
法令名 根拠条項	建築基準法 第86条の8第6項		
法令番号	昭和25年法律第201号		
【根拠条文】	<p>(既存の一の建築物について二以上の工事に分けて増築等を含む工事を行う場合の制限の緩和)</p> <p>第86条の8</p> <p>5 特定行政庁は、認定建築主が第1項の認定を受けた全体計画に従って工事を行っていないと認めるときは、当該認定建築主に対し、相当の猶予期限を付けて、その改善に必要な措置をとるべきことを命ずることができる。</p> <p>6 特定行政庁は、認定建築主が前項の命令に違反したときは、第1項又は第3項の認定を取り消すことができる。</p>		
【基準】	根拠条文に同じ。		
備考			
設定年月日	平成 28 年 4 月 1 日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 1839

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	既存の一の建築物について二以上の工事に分けて用途の変更に伴う工事を行う場合の全体計画等の認定取消し(第86条の8第6項の準用)		
法令名 根拠条項	建築基準法 第87条の2第2項		
法令番号	昭和25年法律第201号		
【根拠条文】	<p>(既存の一の建築物について二以上の工事に分けて用途の変更に伴う工事を行う場合の制限の緩和)</p> <p>第87条の2</p> <p>2 第86条の8第2項から第6項までの規定は、前項の認定について準用する。</p>		
【基準】	<p>準用規定法第86条の8第5項及び第6項の規定による。</p> <p>(既存の一の建築物について二以上の工事に分けて増築等を含む工事を行う場合の制限の緩和)</p> <p>第86条の8</p> <p>5 特定行政庁は、認定建築主が第1項の認定を受けた全体計画に従って工事を行っていないと認めるときは、当該認定建築主に対し、相当の猶予期限を付けて、その改善に必要な措置をとるべきことを命ずることができる。</p> <p>6 特定行政庁は、認定建築主が前項の命令に違反したときは、第1項又は第3項の認定を取り消すことができる。</p>		
備考			
設定年月日	令和2年10月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 1840

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	既存の一の建築物について二以上の工事に分けて用途の変更に伴う工事を行う場合の全体計画等における措置命令(第86条の8第5項の準用)		
法令名 根拠条項	建築基準法 第87条の2第2項		
法令番号	昭和25年法律第201号		
【根拠条文】	<p>(既存の一の建築物について二以上の工事に分けて用途の変更に伴う工事を行う場合の制限の緩和)</p> <p>第87条の2</p> <p>2 第86条の8第2項から第6項までの規定は、前項の認定について準用する。</p>		
【基準】	<p>準用規定法第86条の8第5項の規定による。</p> <p>(既存の一の建築物について二以上の工事に分けて増築等を含む工事を行う場合の制限の緩和)</p> <p>第86条の8</p> <p>5 特定行政庁は、認定建築主が第1項の認定を受けた全体計画に従って工事を行っていないと認めるときは、当該認定建築主に対し、相当の猶予期限を付けて、その改善に必要な措置をとるべきことを命ずることができる。</p>		
備考			
設定年月日	令和2年10月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 576

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	危害防止のための除却等措置命令(第90条の準用における第9条第1項の準用)		
法令名 根拠条項	建築基準法 第87条の4		
法令番号	昭和25年法律第201号		
【根拠条文】	<p>(違反建築物に対する措置)</p> <p>第9条 特定行政庁は、建築基準法令の規定又はこの法律の規定に基づく許可に付した条件に違反した建築物又は建築物の敷地については、当該建築物の建築主、当該建築物に関する工事の請負人(請負工事の下請人を含む。)若しくは現場管理者又は当該建築物若しくは建築物の敷地の所有者、管理者若しくは占有者に対して、当該工事の施工の停止を命じ、又は、相当の猶予期限を付けて、当該建築物の除却、移転、改築、増築、修繕、模様替、使用禁止、使用制限その他これらの規定又は条件に対する違反を是正するために必要な措置をとることを命ずることができる。</p> <p>(建築設備への準用)</p> <p>第87条の4 政令で指定する昇降機その他の建築設備を第6条第1項第1号から第3号までに掲げる建築物に設ける場合においては、同項(第87条第1項において準用する場合を含む。)の規定による確認又は第18条第2項(第87条第1項において準用する場合を含む。)の規定による通知を要する場合を除き、第6条(第3項、第5項及び第6項を除く。)、第6条の2(第3項を除く。)、第6条の4(第1項第1号及び第2号の建築物に係る部分に限る。)、第7条から第7条の4まで、第7条の5(第6条の4第1項第1号及び第2号の建築物に係る部分に限る。)、第7条の6、第18条(第4項から第13項まで及び第25項を除く。)及び第89条から第90条の3までの規定を準用する。この場合において、第6条第4項中「同項第1号から第3号までに係るものにあつてはその受理した日から35日以内に、同項第4号に係るものにあつてはその受理した日から7日以内に」とあるのは、「その受理した日から7日以内に」と読み替えるものとする。</p>		
【基準】	根拠条文に同じ。		
備考			
設定年月日	平成 28 年 4 月 1 日	最終変更年月日	年 月 日



ID: 577

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	建築設備における緊急時の使用禁止, 使用制限命令(第90条の準用における第9条第7項の準用)		
法令名 根拠条項	建築基準法 第87条の2		
法令番号	昭和25年法律第201号		
<b>【根拠条文】</b> (違反建築物に対する措置) 第9条 7 特定行政庁は, 緊急の必要がある場合においては, 前5項の規定にかかわらず, これらに定める手続によらないで, 仮に, 使用禁止又は使用制限の命令をすることができる。  (建築設備への準用) 第87条の2 政令で指定する昇降機その他の建築設備を第6条第1項第1号から第3号までに掲げる建築物に設ける場合においては, 同項(前条第1項において準用する場合を含む。)の規定による確認又は第18条第2項(前条第1項において準用する場合を含む。)の規定による通知を要する場合を除き, 第6条(第3項, 第5項及び第6項を除く。), 第6条の2(第3項を除く。), 第6条の4(第1項第1号及び第2号の建築物に係る部分に限る。), 第7条から第7条の4まで, 第7条の5(第6条の4第1項第1号及び第2号の建築物に係る部分に限る。), 第7条の6, 第18条(第4項から第13項まで及び第25項を除く。)及び第89条から第90条の3までの規定を準用する。この場合において, 第6条第4項中「同項第1号から第3号までに係るものにあつてはその受理した日から35日以内に, 同項第4号に係るものにあつてはその受理した日から7日以内に」とあるのは, 「その受理した日から7日以内に」と読み替えるものとする。  <b>【基準】</b> 根拠条文に同じ。			
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 578

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	危害防止のための工事停止命令(第90条の準用における第9条第10項の準用)		
法令名 根拠条項	建築基準法 第87条の4		
法令番号	昭和25年法律第201号		
【根拠条文】	<p>(違反建築物に対する措置)</p> <p>第9条</p> <p>10 特定行政庁は、建築基準法令の規定又はこの法律の規定に基づく許可に付した条件に違反することが明らかな建築、修繕又は模様替の工事中の建築物については、緊急の必要があつて第2項から第6項までに定める手続によることができない場合に限り、これらの手続によらないで、当該建築物の建築主又は当該工事の請負人(請負工事の下請人を含む。)若しくは現場管理者に対して、当該工事の施工の停止を命ずることができる。この場合において、これらの者が当該工事の現場にいないときは、当該工事に従事する者に対して、当該工事に係る作業の停止を命ずることができる。</p> <p>(建築設備への準用)</p> <p>第87条の4 政令で指定する昇降機その他の建築設備を第6条第1項第1号から第3号までに掲げる建築物に設ける場合においては、同項(第87条第1項において準用する場合を含む。)の規定による確認又は第18条第2項(第87条第1項において準用する場合を含む。)の規定による通知を要する場合を除き、第6条(第3項、第5項及び第6項を除く。)、第6条の2(第3項を除く。)、第6条の4(第1項第1号及び第2号の建築物に係る部分に限る。)、第7条から第7条の4まで、第7条の5(第6条の4第1項第1号及び第2号の建築物に係る部分に限る。)、第7条の6、第18条(第4項から第13項まで及び第25項を除く。)及び第89条から第90条の3までの規定を準用する。この場合において、第6条第4項中「同項第1号から第3号までに係るものにあつてはその受理した日から35日以内に、同項第4号に係るものにあつてはその受理した日から7日以内に」とあるのは、「その受理した日から7日以内に」と読み替えるものとする。</p>		
【基準】	根拠条文に同じ。		
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 579

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	工事中の建築設備に係る措置命令(第90条の2第1項の準用)		
法令名 根拠条項	建築基準法 第87条の4		
法令番号	昭和25年法律第201号		
【根拠条文】	<p>(工事中の特殊建築物等に対する措置)</p> <p>第90条の2 特定行政庁は、第9条又は第10条の規定による場合のほか、建築、修繕若しくは模様替又は除却の工事の施工中に使用されている第6条第1項第1号から第3号までの建築物が、安全上、防火上又は避難上著しく支障があると認める場合においては、当該建築物の建築主又は所有者、管理者若しくは占有者に対して、相当の猶予期限を付けて、当該建築物の使用禁止、使用制限その他安全上、防火上又は避難上必要な措置を採ることを命ずることができる。</p> <p>(建築設備への準用)</p> <p>第87条の4 政令で指定する昇降機その他の建築設備を第6条第1項第1号から第3号までに掲げる建築物に設ける場合においては、同項(第87条第1項において準用する場合を含む。)の規定による確認又は第18条第2項(第87条第1項において準用する場合を含む。)の規定による通知を要する場合を除き、第6条(第3項、第5項及び第6項を除く。)、第6条の2(第3項を除く。)、第6条の4(第1項第1号及び第2号の建築物に係る部分に限る。)、第7条から第7条の4まで、第7条の5(第6条の4第1項第1号及び第2号の建築物に係る部分に限る。)、第7条の6、第18条(第4項から第13項まで及び第25項を除く。)及び第89条から第90条の3までの規定を準用する。この場合において、第6条第4項中「同項第1号から第3号までに係るものにあつてはその受理した日から35日以内に、同項第4号に係るものにあつてはその受理した日から7日以内に」とあるのは、「その受理した日から7日以内に」と読み替えるものとする。</p> <p>【基準】</p> <p>根拠条文に同じ。</p>		
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 580

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	違反煙突等の除却, 移転等の命令(第9条第1項の準用)
法令名 根拠条項	建築基準法 第88条第1項
法令番号	昭和25年法律第201号
<b>【根拠条文】</b> (違反建築物に対する措置) 第9条 特定行政庁は, 建築基準法令の規定又はこの法律の規定に基づく許可に付した条件に違反した建築物又は建築物の敷地については, 当該建築物の建築主, 当該建築物に関する工事の請負人(請負工事の下請人を含む。)若しくは現場管理者又は当該建築物若しくは建築物の敷地の所有者, 管理者若しくは占有者に対して, 当該工事の施工の停止を命じ, 又は, 相当の猶予期限を付けて, 当該建築物の除却, 移転, 改築, 増築, 修繕, 模様替, 使用禁止, 使用制限その他これらの規定又は条件に対する違反を是正するために必要な措置をとることを命ずることができる。  (工作物への準用) 第88条 煙突, 広告塔, 高架水槽, 擁壁その他これらに類する工作物で政令で指定するもの及び昇降機, ウォーターシュート, 飛行塔その他これらに類する工作物で政令で指定するもの(以下この項において「昇降機等」という。)については, 第3条, 第6条(第3項, 第5項及び第6項を除くものとし, 第1項及び第4項は, 昇降機等については第1項第1号から第3号までの建築物に係る部分, その他のものについては同項第4号の建築物に係る部分に限る。), 第6条の2(第3項を除く。), 第6条の4(第1項第1号及び第2号の建築物に係る部分に限る。), 第7条から第7条の4まで, 第7条の5(第6条の4第1項第1号及び第2号の建築物に係る部分に限る。), 第8条から第11条まで, 第12条第5項(第3号を除く。), 及び第6項から第9項まで, 第13条, 第15条の2, 第18条(第4項から第13項まで及び第24項を除く。), 第20条, 第28条の2(同条各号に掲げる基準のうち政令で定めるものに係る部分に限る。), 第32条, 第33条, 第34条第1項, 第36条(避雷設備及び昇降機に係る部分に限る。), 第37条, 第38条, 第40条, 第3章の2(第68条の20第2項については, 同項に規定する建築物以外の認証型式部材等に係る部分に限る。), 第86条の7第1項(第28条の2(第86条の7第1項の政令で定める基準に係る部分に限る。))に係る部分に限る。), 第86条の7第2項(第20条に係る部分に限る。), 第86条の7第3項(第32条, 第34条第1項及び第36条(昇降機に係る部分に限る。))に係る部分に限る。), 前条, 次条並びに第90条の規定を, 昇降機等については, 第7条の6, 第12条第1項から第4項まで, 第12条の2, 第12条の3及び第18条第24項の規定を準用する。この場合において, 第20条第1項中「次の各号に掲げる建築物の区分に応じ, それぞれ当該各号に定める基準」とあるのは, 「政令で定める技	

術的基準」と読み替えるものとする。

**【基準】**

根拠条文に同じ。

備考

設定年月日

平成 28 年 4 月 1 日

最終変更年月日

年 月 日

ID: 581

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	違反煙突等の仮の使用禁止, 使用制限(第9条第7項の準用)
法令名 根拠条項	建築基準法 第88条第1項
法令番号	昭和25年法律第201号
<b>【根拠条文】</b> (違反建築物に対する措置) 第9条 7 特定行政庁は、緊急の必要がある場合においては、前5項の規定にかかわらず、これらに定める手続によらないで、仮に、使用禁止又は使用制限の命令をすることができる。  (工作物への準用) 第88条 煙突、広告塔、高架水槽、擁壁その他これらに類する工作物で政令で指定するもの及び昇降機、ウォーターシュート、飛行塔その他これらに類する工作物で政令で指定するもの（以下この項において「昇降機等」という。）については、第3条、第6条（第3項、第5項及び第6項を除くものとし、第1項及び第4項は、昇降機等については第1項第1号から第3号までの建築物に係る部分、その他のものについては同項第4号の建築物に係る部分に限る。）、第6条の2（第3項を除く。）、第6条の4（第1項第1号及び第2号の建築物に係る部分に限る。）、第7条から第7条の4まで、第7条の5（第6条の4第1項第1号及び第2号の建築物に係る部分に限る。）、第8条から第11条まで、第12条第5項（第3号を除く。）及び第6項から第9項まで、第13条、第15条の2、第18条（第4項から第13項まで及び第24項を除く。）、第20条、第28条の2（同条各号に掲げる基準のうち政令で定めるものに係る部分に限る。）、第32条、第33条、第34条第1項、第36条（避雷設備及び昇降機に係る部分に限る。）、第37条、第38条、第40条、第3章の2（第68条の20第2項については、同項に規定する建築物以外の認証型式部材等に係る部分に限る。）、第86条の7第1項（第28条の2（第86条の7第1項の政令で定める基準に係る部分に限る。）に係る部分に限る。）、第86条の7第2項（第20条に係る部分に限る。）、第86条の7第3項（第32条、第34条第1項及び第36条（昇降機に係る部分に限る。）に係る部分に限る。）、前条、次条並びに第90条の規定を、昇降機等については、第7条の6、第12条第1項から第4項まで、第12条の2、第12条の3及び第18条第24項の規定を準用する。この場合において、第20条第1項中「次の各号に掲げる建築物の区分に応じ、それぞれ当該各号に定める基準」とあるのは、「政令で定める技術的基準」と読み替えるものとする。  <b>【基準】</b> 根拠条文に同じ。	

法適用不利益処分個票

備考			
設定年月日	平成 28 年 4 月 1 日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 582

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	違反煙突等工事について緊急の必要のある停止命令(第9条第10項の準用)
法令名 根拠条項	建築基準法 第88条第1項
法令番号	昭和25年法律第201号
<b>【根拠条文】</b> (違反建築物に対する措置) 第9条 10 特定行政庁は、建築基準法令の規定又はこの法律の規定に基づく許可に付した条件に違反することが明らかな建築、修繕又は模様替の工事中の建築物については、緊急の必要があつて第2項から第6項までに定める手続によることができない場合に限り、これらの手続によらないで、当該建築物の建築主又は当該工事の請負人(請負工事の下請人を含む。)若しくは現場管理者に対して、当該工事の施工の停止を命ずることができる。この場合において、これらの者が当該工事の現場にいないときは、当該工事に従事する者に対して、当該工事に係る作業の停止を命ずることができる。  (工作物への準用) 第88条 煙突、広告塔、高架水槽、擁壁その他これらに類する工作物で政令で指定するもの及び昇降機、ウォーターシュート、飛行塔その他これらに類する工作物で政令で指定するもの(以下この項において「昇降機等」という。)については、第3条、第6条(第3項、第5項及び第6項を除くものとし、第1項及び第4項は、昇降機等については第1項第1号から第3号までの建築物に係る部分、その他のものについては同項第4号の建築物に係る部分に限る。)、第6条の2(第3項を除く。)、第6条の4(第1項第1号及び第2号の建築物に係る部分に限る。)、第7条から第7条の4まで、第7条の5(第6条の4第1項第1号及び第2号の建築物に係る部分に限る。)、第8条から第11条まで、第12条第5項(第3号を除く。) 及び第6項から第9項まで、第13条、第15条の2、第18条(第4項から第13項まで及び第24項を除く。)、第20条、第28条の2(同条各号に掲げる基準のうち政令で定めるものに係る部分に限る。)、第32条、第33条、第34条第1項、第36条(避雷設備及び昇降機に係る部分に限る。)、第37条、第38条、第40条、第3章の2(第68条の20第2項については、同項に規定する建築物以外の認証型式部材等に係る部分に限る。)、第86条の7第1項(第28条の2(第86条の7第1項の政令で定める基準に係る部分に限る。))に係る部分に限る。)、第86条の7第2項(第20条に係る部分に限る。)、第86条の7第3項(第32条、第34条第1項及び第36条(昇降機に係る部分に限る。))に係る部分に限る。)、前条、次条並びに第90条の規定を、昇降機等については、第7条の6、第12条第1項から第4項まで、第12条の2、第12条の3及び第18条第24項の規定を準用する。この場合において、第20条第1項中「次の各号に掲げ	



法適用不利益処分個票

る建築物の区分に応じ、それぞれ当該各号に定める基準」とあるのは、「政令で定める技術的基準」と読み替えるものとする。

**【基準】**

根拠条文に同じ。

備考

設定年月日

平成 28 年 4 月 1 日

最終変更年月日

年 月 日

ID: 583

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	著しく保安上危険な煙突等の所有者等に対する除却命令等(第10条第2項の準用)
法令名 根拠条項	建築基準法 第88条第1項
法令番号	昭和25年法律第201号
<b>【根拠条文】</b> (著しく保安上危険な建築物等の所有者等に対する勧告及び命令) 第10条 特定行政庁は、第6条第1項第1号に掲げる建築物その他政令で定める建築物の敷地、構造又は建築設備(いずれも第3条第2項の規定により次章の規定又はこれに基づく命令若しくは条例の規定の適用を受けないものに限る。)について、損傷、腐食その他の劣化が進み、そのまま放置すれば著しく保安上危険となり、又は著しく衛生上有害となるおそれがあると認める場合においては、当該建築物又はその敷地の所有者、管理者又は占有者に対して、相当の猶予期限を付けて、当該建築物の除却、移転、改築、増築、修繕、模様替、使用中止、使用制限その他保安上又は衛生上必要な措置をとることを勧告することができる。 2 特定行政庁は、前項の勧告を受けた者が正当な理由がなくてその勧告に係る措置をとらなかつた場合において、特に必要があると認めるときは、その者に対し、相当の猶予期限を付けて、その勧告に係る措置をとることを命ずることができる。  (工作物への準用) 第88条 煙突、広告塔、高架水槽、擁壁その他これらに類する工作物で政令で指定するもの及び昇降機、ウォーターシュート、飛行塔その他これらに類する工作物で政令で指定するもの(以下この項において「昇降機等」という。)については、第3条、第6条(第3項、第5項及び第6項を除くものとし、第1項及び第4項は、昇降機等については第1項第1号から第3号までの建築物に係る部分、その他のものについては同項第4号の建築物に係る部分に限る。)、第6条の2(第3項を除く。)、第6条の4(第1項第1号及び第2号の建築物に係る部分に限る。)、第7条から第7条の4まで、第7条の5(第6条の4第1項第1号及び第2号の建築物に係る部分に限る。)、第8条から第11条まで、第12条第5項(第3号を除く。)及び第6項から第9項まで、第13条、第15条の2、第18条(第4項から第13項まで及び第24項を除く。)、第20条、第28条の2(同条各号に掲げる基準のうち政令で定めるものに係る部分に限る。)、第32条、第33条、第34条第1項、第36条(避雷設備及び昇降機に係る部分に限る。)、第37条、第38条、第40条、第3章の2(第68条の20第2項については、同項に規定する建築物以外の認証型式部材等に係る部分に限る。)、第86条の7第1項(第28条の2(第86条の7第1項の政令で定める基準に係る部分に限る。))に係る部分に限る。)、第86条の7第2項(第20条に係る部分に限る。)、第86条の7第3項(第32条、第34条第1項及び第36条(昇降機に係る部分に限る。))に係る部分	

に限る。), 前条, 次条並びに第90条の規定を, 昇降機等については, 第7条の6, 第12条第1項から第4項まで, 第12条の2, 第12条の3及び第18条第24項の規定を準用する。この場合において, 第20条第1項中「次の各号に掲げる建築物の区分に応じ, それぞれ当該各号に定める基準」とあるのは, 「政令で定める技術的基準」と読み替えるものとする。

**【基準】**

根拠条文に同じ。

備考

設定年月日

平成 28 年 4 月 1 日

最終変更年月日

年 月 日

ID: 584

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	危険煙突等の使用禁止, 使用制限(第10条第3項の準用)
法令名 根拠条項	建築基準法 第88条第1項
法令番号	昭和25年法律第201号
<b>【根拠条文】</b> (著しく保安上危険な建築物等の所有者等に対する勧告及び命令) 第10条 3 前項の規定による場合のほか, 特定行政庁は, 建築物の敷地, 構造又は建築設備(いずれも第3条第2項の規定により次章の規定又はこれに基づく命令若しくは条例の規定の適用を受けないものに限る。)が著しく保安上危険であり, 又は著しく衛生上有害であると認める場合においては, 当該建築物又はその敷地の所有者, 管理者又は占有者に対して, 相当の猶予期限を付けて, 当該建築物の除却, 移転, 改築, 増築, 修繕, 模様替, 使用禁止, 使用制限その他保安上又は衛生上必要な措置をとることを命ずることができる。  (工作物への準用) 第88条 煙突, 広告塔, 高架水槽, 擁壁その他これらに類する工作物で政令で指定するもの及び昇降機, ウォーターシュート, 飛行塔その他これらに類する工作物で政令で指定するもの(以下この項において「昇降機等」という。)については, 第3条, 第6条(第3項, 第5項及び第6項を除くものとし, 第1項及び第4項は, 昇降機等については第1項第1号から第3号までの建築物に係る部分, その他のものについては同項第4号の建築物に係る部分に限る。), 第6条の2(第3項を除く。), 第6条の4(第1項第1号及び第2号の建築物に係る部分に限る。), 第7条から第7条の4まで, 第7条の5(第6条の4第1項第1号及び第2号の建築物に係る部分に限る。), 第8条から第11条まで, 第12条第5項(第3号を除く。)及び第6項から第9項まで, 第13条, 第15条の2, 第18条(第4項から第13項まで及び第24項を除く。), 第20条, 第28条の2(同条各号に掲げる基準のうち政令で定めるものに係る部分に限る。), 第32条, 第33条, 第34条第1項, 第36条(避雷設備及び昇降機に係る部分に限る。), 第37条, 第38条, 第40条, 第3章の2(第68条の20第2項については, 同項に規定する建築物以外の認証型式部材等に係る部分に限る。), 第86条の7第1項(第28条の2(第86条の7第1項の政令で定める基準に係る部分に限る。)に係る部分に限る。), 第86条の7第2項(第20条に係る部分に限る。), 第86条の7第3項(第32条, 第34条第1項及び第36条(昇降機に係る部分に限る。)に係る部分に限る。), 前条, 次条並びに第90条の規定を, 昇降機等については, 第7条の6, 第12条第1項から第4項まで, 第12条の2, 第12条の3及び第18条第24項の規定を準用する。この場合において, 第20条第1項中「次の各号に掲げる建築物の区分に応じ, それぞれ当該各号に定める基準」とあるのは, 「政令で定める技術的基準」と読み替えるものとする。	

<b>【基準】</b> 根拠条文に同じ。			
<b>備考</b>			
<b>設定年月日</b>	平成 28 年 4 月 1 日	<b>最終変更年月日</b>	年 月 日

ID: 585

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	危害防止のための除却等措置命令(第87条の4及び第90条の準用における第9条第1項の準用)
法令名 根拠条項	建築基準法 第88条第1項
法令番号	昭和25年法律第201号
<b>【根拠条文】</b> (違反建築物に対する措置) 第9条 特定行政庁は、建築基準法令の規定又はこの法律の規定に基づく許可に付した条件に違反した建築物又は建築物の敷地については、当該建築物の建築主、当該建築物に関する工事の請負人(請負工事の下請人を含む。)若しくは現場管理者又は当該建築物若しくは建築物の敷地の所有者、管理者若しくは占有者に対して、当該工事の施工の停止を命じ、又は、相当の猶予期限を付けて、当該建築物の除却、移転、改築、増築、修繕、模様替、使用禁止、使用制限その他これらの規定又は条件に対する違反を是正するために必要な措置をとることを命ずることができる。  (工作物への準用) 第88条 煙突、広告塔、高架水槽、擁壁その他これらに類する工作物で政令で指定するもの及び昇降機、ウォーターシュート、飛行塔その他これらに類する工作物で政令で指定するもの(以下この項において「昇降機等」という。)については、第3条、第6条(第3項、第5項及び第6項を除くものとし、第1項及び第4項は、昇降機等については第1項第1号から第3号までの建築物に係る部分、その他のものについては同項第4号の建築物に係る部分に限る。)、第6条の2(第3項を除く。)、第6条の4(第1項第1号及び第2号の建築物に係る部分に限る。)、第7条から第7条の4まで、第7条の5(第6条の4第1項第1号及び第2号の建築物に係る部分に限る。)、第8条から第11条まで、第12条第5項(第3号を除く。)及び第6項から第9項まで、第13条、第15条の2、第18条(第4項から第13項まで及び第24項を除く。)、第20条、第28条の2(同条各号に掲げる基準のうち政令で定めるものに係る部分に限る。)、第32条、第33条、第34条第1項、第36条(避雷設備及び昇降機に係る部分に限る。)、第37条、第38条、第40条、第3章の2(第68条の20第2項については、同項に規定する建築物以外の認証型式部材等に係る部分に限る。)、第86条の7第1項(第28条の2(第86条の7第1項の政令で定める基準に係る部分に限る。)に係る部分に限る。)、第86条の7第2項(第20条に係る部分に限る。)、第86条の7第3項(第32条、第34条第1項及び第36条(昇降機に係る部分に限る。)に係る部分に限る。)、前条、次条並びに第90条の規定を、昇降機等については、第7条の6、第12条第1項から第4項まで、第12条の2、第12条の3及び第18条第24項の規定を準用する。この場合において、第20条第1項中「次の各号に掲げる建築物の区分に応じ、それぞれ当該各号に定める基準」とあるのは、「政令で定める技術的基準」と読み替えるものとする。	

<b>【基準】</b> 根拠条文に同じ。			
<b>備考</b>			
<b>設定年月日</b>	平成 28 年 4 月 1 日	<b>最終変更年月日</b>	年 月 日

ID: 586

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	緊急時の使用禁止, 使用制限命令(第87条の4及び第90条の準用における第9条第7項の準用)
法令名 根拠条項	建築基準法 第88条第1項
法令番号	昭和25年法律第201号
<b>【根拠条文】</b> (違反建築物に対する措置) 第9条 7 特定行政庁は, 緊急の必要がある場合においては, 前5項の規定にかかわらず, これらに定める手続によらないで, 仮に, 使用禁止又は使用制限の命令をすることができる。  (工作物への準用) 第88条 煙突, 広告塔, 高架水槽, 擁壁その他これらに類する工作物で政令で指定するもの及び昇降機, ウォーターシュート, 飛行塔その他これらに類する工作物で政令で指定するもの(以下この項において「昇降機等」という。)については, 第3条, 第6条(第3項, 第5項及び第6項を除くものとし, 第1項及び第4項は, 昇降機等については第1項第1号から第3号までの建築物に係る部分, その他のものについては同項第4号の建築物に係る部分に限る。), 第6条の2(第3項を除く。), 第6条の4(第1項第1号及び第2号の建築物に係る部分に限る。), 第7条から第7条の4まで, 第7条の5(第6条の4第1項第1号及び第2号の建築物に係る部分に限る。), 第8条から第11条まで, 第12条第5項(第3号を除く。)及び第6項から第9項まで, 第13条, 第15条の2, 第18条(第4項から第13項まで及び第24項を除く。), 第20条, 第28条の2(同条各号に掲げる基準のうち政令で定めるものに係る部分に限る。), 第32条, 第33条, 第34条第1項, 第36条(避雷設備及び昇降機に係る部分に限る。), 第37条, 第38条, 第40条, 第3章の2(第68条の20第2項については, 同項に規定する建築物以外の認証型式部材等に係る部分に限る。), 第86条の7第1項(第28条の2(第86条の7第1項の政令で定める基準に係る部分に限る。)に係る部分に限る。), 第86条の7第2項(第20条に係る部分に限る。), 第86条の7第3項(第32条, 第34条第1項及び第36条(昇降機に係る部分に限る。)に係る部分に限る。), 前条, 次条並びに第90条の規定を, 昇降機等については, 第7条の6, 第12条第1項から第4項まで, 第12条の2, 第12条の3及び第18条第24項の規定を準用する。この場合において, 第20条第1項中「次の各号に掲げる建築物の区分に応じ, それぞれ当該各号に定める基準」とあるのは, 「政令で定める技術的基準」と読み替えるものとする。	
<b>【基準】</b> 根拠条文と同じ。	



法適用不利益処分個票

備考			
設定年月日	平成 28 年 4 月 1 日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 587

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	危害防止のための工事停止命令(第87条の4及び第90条の準用における第9条第10項の準用)
法令名 根拠条項	建築基準法 第88条第1項
法令番号	昭和25年法律第201号
<b>【根拠条文】</b> (違反建築物に対する措置) 第9条 10 特定行政庁は、建築基準法令の規定又はこの法律の規定に基づく許可に付した条件に違反することが明らかな建築、修繕又は模様替の工事中の建築物については、緊急の必要があつて第2項から第6項までに定める手続によることができない場合に限り、これらの手続によらないで、当該建築物の建築主又は当該工事の請負人(請負工事の下請人を含む。)若しくは現場管理者に対して、当該工事の施工の停止を命ずることができる。この場合において、これらの者が当該工事の現場にいないときは、当該工事に従事する者に対して、当該工事に係る作業の停止を命ずることができる。  (工作物への準用) 第88条 煙突、広告塔、高架水槽、擁壁その他これらに類する工作物で政令で指定するもの及び昇降機、ウォーターシュート、飛行塔その他これらに類する工作物で政令で指定するもの(以下この項において「昇降機等」という。)については、第3条、第6条(第3項、第5項及び第6項を除くものとし、第1項及び第4項は、昇降機等については第1項第1号から第3号までの建築物に係る部分、その他のものについては同項第4号の建築物に係る部分に限る。)、第6条の2(第3項を除く。)、第6条の4(第1項第1号及び第2号の建築物に係る部分に限る。)、第7条から第7条の4まで、第7条の5(第6条の4第1項第1号及び第2号の建築物に係る部分に限る。)、第8条から第11条まで、第12条第5項(第3号を除く。)及び第6項から第9項まで、第13条、第15条の2、第18条(第4項から第13項まで及び第24項を除く。)、第20条、第28条の2(同条各号に掲げる基準のうち政令で定めるものに係る部分に限る。)、第32条、第33条、第34条第1項、第36条(避雷設備及び昇降機に係る部分に限る。)、第37条、第38条、第40条、第3章の2(第68条の20第2項については、同項に規定する建築物以外の認証型式部材等に係る部分に限る。)、第86条の7第1項(第28条の2(第86条の7第1項の政令で定める基準に係る部分に限る。)に係る部分に限る。)、第86条の7第2項(第20条に係る部分に限る。)、第86条の7第3項(第32条、第34条第1項及び第36条(昇降機に係る部分に限る。)に係る部分に限る。)、前条、次条並びに第90条の規定を、昇降機等については、第7条の6、第12条第1項から第4項まで、第12条の2、第12条の3及び第18条第24項の規定を準用する。この場合において、第20条第1項中「次の各号に掲げる建築物の区分に応じ、それぞれ当該各号に定める	

基準」とあるのは、「政令で定める技術的基準」と読み替えるものとする。

**【基準】**

根拠条文に同じ。

備考

設定年月日

平成 28 年 4 月 1 日

最終変更年月日

年 月 日

ID: 589

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	違反製造施設等の除却, 移転等の命令(第9条第1項の準用)
法令名 根拠条項	建築基準法 第88条第2項
法令番号	昭和25年法律第201号
<b>【根拠条文】</b> (違反建築物に対する措置) 第9条 特定行政庁は, 建築基準法令の規定又はこの法律の規定に基づく許可に付した条件に違反した建築物又は建築物の敷地については, 当該建築物の建築主, 当該建築物に関する工事の請負人(請負工事の下請人を含む。)若しくは現場管理者又は当該建築物若しくは建築物の敷地の所有者, 管理者若しくは占有者に対して, 当該工事の施工の停止を命じ, 又は, 相当の猶予期限を付けて, 当該建築物の除却, 移転, 改築, 増築, 修繕, 模様替, 使用禁止, 使用制限その他これらの規定又は条件に対する違反を是正するために必要な措置をとることを命ずることができる。  (工作物への準用) 第88条 2 製造施設, 貯蔵施設, 遊戯施設等の工作物で政令で指定するものについては, 第3条, 第6条(第3項, 第5項及び第6項を除くものとし, 第1項及び第4項は, 第1項第1号から第3号までの建築物に係る部分に限る。), 第6条の2(第3項を除く。), 第7条, 第7条の2, 第7条の6から第9条の3まで, 第11条, 第12条第5項(第3号を除く。)及び第6項から第9項まで, 第13条, 第15条の2, 第18条(第4項から第13項まで及び第19項から第23項までを除く。), 第48条から第51条まで, 第60条の2第3項, 第60条の3第3項, 第68条の2第1項及び第5項, 第68条の3第6項から第9項まで, 第86条の7第1項(第48条第1項から第13項まで及び第51条に係る部分に限る。), 第87条第2項(第48条第1項から第13項まで, 第49条から第51条まで, 第60条の2第3項, 第60条の3第3項並びに第68条の2第1項及び第5項に係る部分に限る。), 第87条第3項(第48条第1項から第13項まで, 第49条から第51条まで及び第68条の2第1項に係る部分に限る。), 前条, 次条, 第91条, 第92条の2並びに第93条の2の規定を準用する。この場合において, 第6条第2項及び別表第2中「床面積の合計」とあるのは「築造面積」と, 第68条の2第1項中「敷地, 構造, 建築設備又は用途」とあるのは「用途」と読み替えるものとする。  <b>【基準】</b> 根拠条文と同じ。	

法適用不利益処分個票

備考			
設定年月日	平成 28 年 4 月 1 日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 590

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	違反製造施設等の仮の使用禁止, 使用制限(第9条第7項の準用)		
法令名 根拠条項	建築基準法 第88条第2項		
法令番号	昭和25年法律第201号		
【根拠条文】	<p>(違反建築物に対する措置)</p> <p>第9条</p> <p>7 特定行政庁は、緊急の必要がある場合においては、前5項の規定にかかわらず、これらに定める手続によらないで、仮に、使用禁止又は使用制限の命令をすることができる。</p> <p>(工作物への準用)</p> <p>第88条</p> <p>2 製造施設, 貯蔵施設, 遊戯施設等の工作物で政令で指定するものについては、第3条, 第6条(第3項, 第5項及び第6項を除くものとし, 第1項及び第4項は, 第1項第1号から第3号までの建築物に係る部分に限る。), 第6条の2(第3項を除く。), 第7条, 第7条の2, 第7条の6から第9条の3まで, 第11条, 第12条第5項(第3号を除く。)及び第6項から第9項まで, 第13条, 第15条の2, 第18条(第4項から第13項まで及び第19項から第23項までを除く。), 第48条から第51条まで, 第60条の2第3項, 第60条の3第3項, 第68条の2第1項及び第5項, 第68条の3第6項から第9項まで, 第86条の7第1項(第48条第1項から第13項まで及び第51条に係る部分に限る。), 第87条第2項(第48条第1項から第13項まで, 第49条から第51条まで, 第60条の2第3項, 第60条の3第3項並びに第68条の2第1項及び第5項に係る部分に限る。), 第87条第3項(第48条第1項から第13項まで, 第49条から第51条まで及び第68条の2第1項に係る部分に限る。), 前条, 次条, 第91条, 第92条の2並びに第93条の2の規定を準用する。この場合において、第6条第2項及び別表第2中「床面積の合計」とあるのは「築造面積」と, 第68条の2第1項中「敷地, 構造, 建築設備又は用途」とあるのは「用途」と読み替えるものとする。</p>		
【基準】	根拠条文に同じ。		
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 591

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	違反製造施設等工事について緊急の必要のある停止命令(第9条第10項の準用)
法令名 根拠条項	建築基準法 第88条第2項
法令番号	昭和25年法律第201号
<b>【根拠条文】</b> (違反建築物に対する措置) 第9条 10 特定行政庁は、建築基準法令の規定又はこの法律の規定に基づく許可に付した条件に違反することが明らかな建築、修繕又は模様替の工事中の建築物については、緊急の必要があつて第2項から第6項までに定める手続によることができない場合に限り、これらの手続によらないで、当該建築物の建築主又は当該工事の請負人(請負工事の下請人を含む。)若しくは現場管理者に対して、当該工事の施工の停止を命ずることができる。この場合において、これらの者が当該工事の現場にいないときは、当該工事に従事する者に対して、当該工事に係る作業の停止を命ずることができる。  (工作物への準用) 第88条 2 製造施設、貯蔵施設、遊戯施設等の工作物で政令で指定するものについては、第3条、第6条(第3項、第5項及び第6項を除くものとし、第1項及び第4項は、第1項第1号から第3号までの建築物に係る部分に限る。)、第6条の2(第3項を除く。)、第7条、第7条の2、第7条の6から第9条の3まで、第11条、第12条第5項(第3号を除く。))及び第6項から第9項まで、第13条、第15条の2、第18条(第4項から第13項まで及び第19項から第23項までを除く。)、第48条から第51条まで、第60条の2第3項、第60条の3第3項、第68条の2第1項及び第5項、第68条の3第6項から第9項まで、第86条の7第1項(第48条第1項から第13項まで及び第51条に係る部分に限る。)、第87条第2項(第48条第1項から第13項まで、第49条から第51条まで、第60条の2第3項、第60条の3第3項並びに第68条の2第1項及び第5項に係る部分に限る。)、第87条第3項(第48条第1項から第13項まで、第49条から第51条まで及び第68条の2第1項に係る部分に限る。)、前条、次条、第91条、第92条の2並びに第93条の2の規定を準用する。この場合において、第6条第2項及び別表第2中「床面積の合計」とあるのは「築造面積」と、第68条の2第1項中「敷地、構造、建築設備又は用途」とあるのは「用途」と読み替えるものとする。  <b>【基準】</b> 根拠条文に同じ。	

法適用不利益処分個票

備考			
設定年月日	平成 28 年 4 月 1 日	最終変更年月日	年 月 日



ID: 592

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	危害防止のための除却等措置命令(第87条の4及び第90条の準用における第9条第1項の準用)
法令名 根拠条項	建築基準法 第88条第2項
法令番号	昭和25年法律第201号
<b>【根拠条文】</b> (違反建築物に対する措置) 第9条 特定行政庁は、建築基準法令の規定又はこの法律の規定に基づく許可に付した条件に違反した建築物又は建築物の敷地については、当該建築物の建築主、当該建築物に関する工事の請負人(請負工事の下請人を含む。)若しくは現場管理者又は当該建築物若しくは建築物の敷地の所有者、管理者若しくは占有者に対して、当該工事の施工の停止を命じ、又は、相当の猶予期限を付けて、当該建築物の除却、移転、改築、増築、修繕、模様替、使用禁止、使用制限その他これらの規定又は条件に対する違反を是正するために必要な措置をとることを命ずることができる。  (工作物への準用) 第88条 2 製造施設、貯蔵施設、遊戯施設等の工作物で政令で指定するものについては、第3条、第6条(第3項、第5項及び第6項を除くものとし、第1項及び第4項は、第1項第1号から第3号までの建築物に係る部分に限る。)、第6条の2(第3項を除く。)、第7条、第7条の2、第7条の6から第9条の3まで、第11条、第12条第5項(第3号を除く。)及び第6項から第9項まで、第13条、第15条の2、第18条(第4項から第13項まで及び第19項から第23項までを除く。)、第48条から第51条まで、第60条の2第3項、第60条の3第3項、第68条の2第1項及び第5項、第68条の3第6項から第9項まで、第86条の7第1項(第48条第1項から第13項まで及び第51条に係る部分に限る。)、第87条第2項(第48条第1項から第13項まで、第49条から第51条まで、第60条の2第3項、第60条の3第3項並びに第68条の2第1項及び第5項に係る部分に限る。)、第87条第3項(第48条第1項から第13項まで、第49条から第51条まで及び第68条の2第1項に係る部分に限る。)、前条、次条、第91条、第92条の2並びに第93条の2の規定を準用する。この場合において、第6条第2項及び別表第2中「床面積の合計」とあるのは「築造面積」と、第68条の2第1項中「敷地、構造、建築設備又は用途」とあるのは「用途」と読み替えるものとする。	
<b>【基準】</b> 根拠条文に同じ。	

法適用不利益処分個票

備考			
設定年月日	平成 28 年 4 月 1 日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 593

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	緊急時の使用禁止, 使用制限命令(第87条の4及び第90条の準用における第9条第7項の準用)		
法令名 根拠条項	建築基準法 第88条第2項		
法令番号	昭和25年法律第201号		
<b>【根拠条文】</b> (違反建築物に対する措置) 第9条 7 特定行政庁は, 緊急の必要がある場合においては, 前5項の規定にかかわらず, これらに定める手続によらないで, 仮に, 使用禁止又は使用制限の命令をすることができる。  (工作物への準用) 第88条 2 製造施設, 貯蔵施設, 遊戯施設等の工作物で政令で指定するものについては, 第3条, 第6条(第3項, 第5項及び第6項を除くものとし, 第1項及び第4項は, 第1項第1号から第3号までの建築物に係る部分に限る。), 第6条の2(第3項を除く。), 第7条, 第7条の2, 第7条の6から第9条の3まで, 第11条, 第12条第5項(第3号を除く。)及び第6項から第9項まで, 第13条, 第15条の2, 第18条(第4項から第13項まで及び第19項から第23項までを除く。), 第48条から第51条まで, 第60条の2第3項, 第60条の3第3項, 第68条の2第1項及び第5項, 第68条の3第6項から第9項まで, 第86条の7第1項(第48条第1項から第13項まで及び第51条に係る部分に限る。), 第87条第2項(第48条第1項から第13項まで, 第49条から第51条まで, 第60条の2第3項, 第60条の3第3項並びに第68条の2第1項及び第5項に係る部分に限る。), 第87条第3項(第48条第1項から第13項まで, 第49条から第51条まで及び第68条の2第1項に係る部分に限る。), 前条, 次条, 第91条, 第92条の2並びに第93条の2の規定を準用する。この場合において, 第6条第2項及び別表第2中「床面積の合計」とあるのは「築造面積」と, 第68条の2第1項中「敷地, 構造, 建築設備又は用途」とあるのは「用途」と読み替えるものとする。  <b>【基準】</b> 根拠条文に同じ。			
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 594

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	危害防止のための工事停止命令(第87条の4及び第90条の準用における第9条第10項の準用)
法令名 根拠条項	建築基準法 第88条第2項
法令番号	昭和25年法律第201号
<b>【根拠条文】</b> (違反建築物に対する措置) 第9条 10 特定行政庁は、建築基準法令の規定又はこの法律の規定に基づく許可に付した条件に違反することが明らかな建築、修繕又は模様替の工事中の建築物については、緊急の必要があつて第2項から第6項までに定める手続によることができない場合に限り、これらの手続によらないで、当該建築物の建築主又は当該工事の請負人(請負工事の下請人を含む。)若しくは現場管理者に対して、当該工事の施工の停止を命ずることができる。この場合において、これらの者が当該工事の現場にいないときは、当該工事に従事する者に対して、当該工事に係る作業の停止を命ずることができる。  (工作物への準用) 第88条 2 製造施設、貯蔵施設、遊戯施設等の工作物で政令で指定するものについては、第3条、第6条(第3項、第5項及び第6項を除くものとし、第1項及び第4項は、第1項第1号から第3号までの建築物に係る部分に限る。)、第6条の2(第3項を除く。)、第7条、第7条の2、第7条の6から第9条の3まで、第11条、第12条第5項(第3号を除く。)及び第6項から第9項まで、第13条、第15条の2、第18条(第4項から第13項まで及び第19項から第23項までを除く。)、第48条から第51条まで、第60条の2第3項、第60条の3第3項、第68条の2第1項及び第5項、第68条の3第6項から第9項まで、第86条の7第1項(第48条第1項から第13項まで及び第51条に係る部分に限る。)、第87条第2項(第48条第1項から第13項まで、第49条から第51条まで、第60条の2第3項、第60条の3第3項並びに第68条の2第1項及び第5項に係る部分に限る。)、第87条第3項(第48条第1項から第13項まで、第49条から第51条まで及び第68条の2第1項に係る部分に限る。)、前条、次条、第91条、第92条の2並びに第93条の2の規定を準用する。この場合において、第6条第2項及び別表第2中「床面積の合計」とあるのは「築造面積」と、第68条の2第1項中「敷地、構造、建築設備又は用途」とあるのは「用途」と読み替えるものとする。  <b>【基準】</b> 根拠条文に同じ。	

法適用不利益処分個票

備考			
設定年月日	平成 28 年 4 月 1 日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 595

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	工事中の建設設備に係る措置命令(第90条の2第1項の準用)
法令名 根拠条項	建築基準法 第88条第2項
法令番号	昭和25年法律第201号
<b>【根拠条文】</b> (工事中の特殊建築物等に対する措置) 第90条の2 特定行政庁は、第9条又は第10条の規定による場合のほか、建築、修繕若しくは模様替又は除却の工事の施工中に使用されている第6条第1項第1号から第3号までの建築物が、安全上、防火上又は避難上著しく支障があると認める場合においては、当該建築物の建築主又は所有者、管理者若しくは占有者に対して、相当の猶予期限を付けて、当該建築物の使用禁止、使用制限その他安全上、防火上又は避難上必要な措置を採ることを命ずることができる。  (工作物への準用) 第88条 2 製造施設、貯蔵施設、遊戯施設等の工作物で政令で指定するものについては、第3条、第6条(第3項、第5項及び第6項を除くものとし、第1項及び第4項は、第1項第1号から第3号までの建築物に係る部分に限る。)、第6条の2(第3項を除く。)、第7条、第7条の2、第7条の6から第9条の3まで、第11条、第12条第5項(第3号を除く。))及び第6項から第9項まで、第13条、第15条の2、第18条(第4項から第13項まで及び第19項から第23項までを除く。)、第48条から第51条まで、第60条の2第3項、第60条の3第3項、第68条の2第1項及び第5項、第68条の3第6項から第9項まで、第86条の7第1項(第48条第1項から第13項まで及び第51条に係る部分に限る。)、第87条第2項(第48条第1項から第13項まで、第49条から第51条まで、第60条の2第3項、第60条の3第3項並びに第68条の2第1項及び第5項に係る部分に限る。)、第87条第3項(第48条第1項から第13項まで、第49条から第51条まで及び第68条の2第1項に係る部分に限る。)、前条、次条、第91条、第92条の2並びに第93条の2の規定を準用する。この場合において、第6条第2項及び別表第2中「床面積の合計」とあるのは「築造面積」と、第68条の2第1項中「敷地、構造、建築設備又は用途」とあるのは「用途」と読み替えるものとする。  <b>【基準】</b> 根拠条文に同じ。	

法適用不利益処分個票

備考			
設定年月日	平成 28 年 4 月 1 日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 596

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	違反看板等の除却, 移転等の命令(第64条に規定する工作物に係る第9条第1項の準用)		
法令名 根拠条項	建築基準法 第88条第3項		
法令番号	昭和25年法律第201号		
【根拠条文】	<p>(違反建築物に対する措置)</p> <p>第9条 特定行政庁は, 建築基準法令の規定又はこの法律の規定に基づく許可に付した条件に違反した建築物又は建築物の敷地については, 当該建築物の建築主, 当該建築物に関する工事の請負人(請負工事の下請人を含む。)若しくは現場管理者又は当該建築物若しくは建築物の敷地の所有者, 管理者若しくは占有者に対して, 当該工事の施工の停止を命じ, 又は, 相当の猶予期限を付けて, 当該建築物の除却, 移転, 改築, 増築, 修繕, 模様替, 使用禁止, 使用制限その他これらの規定又は条件に対する違反を是正するために必要な措置をとることを命ずることができる。</p> <p>(工作物への準用)</p> <p>第88条</p> <p>3 第3条, 第8条から第11条まで, 第12条(第5項第3号を除く。), 第12条の2, 第12条の3, 第13条, 第15条の2並びに第18条第1項及び第25項の規定は, 第66条に規定する工作物について準用する。</p> <p>【基準】</p> <p>根拠条文に同じ。</p>		
備考			
設定年月日	平成 28 年 4 月 1 日	最終変更年月日	年 月 日



ID: 597

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	違反看板等の仮の使用禁止, 使用制限(第64条に規定する工作物に係る第9条第7項の準用)		
法令名 根拠条項	建築基準法 第88条第3項		
法令番号	昭和25年法律第201号		
【根拠条文】	<p>(違反建築物に対する措置)</p> <p>第9条</p> <p>7 特定行政庁は, 緊急の必要がある場合においては, 前5項の規定にかかわらず, これらに定める手続によらないで, 仮に, 使用禁止又は使用制限の命令をすることができる。</p> <p>(工作物への準用)</p> <p>第88条</p> <p>3 第3条, 第8条から第11条まで, 第12条(第5項第3号を除く。), 第12条の2, 第12条の3, 第13条, 第15条の2並びに第18条第1項及び第25項の規定は, 第66条に規定する工作物について準用する。</p> <p>【基準】</p> <p>根拠条文に同じ。</p>		
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 598

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	違反看板等設置工事について緊急の必要のある停止命令(第64条に規定する工作物に係る第9条第10項の準用)		
法令名 根拠条項	建築基準法 第88条第3項		
法令番号	昭和25年法律第201号		
【根拠条文】	<p>(違反建築物に対する措置)</p> <p>第9条</p> <p>10 特定行政庁は、建築基準法令の規定又はこの法律の規定に基づく許可に付した条件に違反することが明らかな建築、修繕又は模様替の工事中の建築物については、緊急の必要があつて第2項から第6項までに定める手続によることができない場合に限り、これらの手続によらないで、当該建築物の建築主又は当該工事の請負人(請負工事の下請人を含む。)若しくは現場管理者に対して、当該工事の施工の停止を命ずることができる。この場合において、これらの者が当該工事の現場にいないときは、当該工事に従事する者に対して、当該工事に係る作業の停止を命ずることができる。</p> <p>(工作物への準用)</p> <p>第88条</p> <p>3 第3条、第8条から第11条まで、第12条(第5項第3号を除く。), 第12条の2、第12条の3、第13条、第15条の2並びに第18条第1項及び第25項の規定は、第66条に規定する工作物について準用する。</p> <p>【基準】</p> <p>根拠条文に同じ。</p>		
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 599

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	著しく保安上危険な看板等の所有者等に対する除却命令等(第64条に規定する工作物に係る第10条第2項の準用)		
法令名 根拠条項	建築基準法 第88条第3項		
法令番号	昭和25年法律第201号		
【根拠条文】	<p>(著しく保安上危険な建築物等の所有者等に対する勧告及び命令)</p> <p>第10条 特定行政庁は、第6条第1項第1号に掲げる建築物その他政令で定める建築物の敷地、構造又は建築設備(いずれも第3条第2項の規定により次章の規定又はこれに基づく命令若しくは条例の規定の適用を受けないものに限る。)について、損傷、腐食その他の劣化が進み、そのまま放置すれば著しく保安上危険となり、又は著しく衛生上有害となるおそれがあると認める場合においては、当該建築物又はその敷地の所有者、管理者又は占有者に対して、相当の猶予期限を付けて、当該建築物の除却、移転、改築、増築、修繕、模様替、使用中止、使用制限その他保安上又は衛生上必要な措置をとることを勧告することができる。</p> <p>2 特定行政庁は、前項の勧告を受けた者が正当な理由がなくてその勧告に係る措置をとらなかつた場合において、特に必要があると認めるときは、その者に対し、相当の猶予期限を付けて、その勧告に係る措置をとることを命ずることができる。</p> <p>(工作物への準用)</p> <p>第88条</p> <p>3 第3条、第8条から第11条まで、第12条(第5項第3号を除く。)、第12条の2、第12条の3、第13条、第15条の2並びに第18条第1項及び第25項の規定は、第66条に規定する工作物について準用する。</p> <p>【基準】</p> <p>根拠条文に同じ。</p>		
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 600

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	危険看板等の使用禁止, 使用制限(第64条に規定する工作物に係る第10条第3項の準用)		
法令名 根拠条項	建築基準法 第88条第3項		
法令番号	昭和25年法律第201号		
<b>【根拠条文】</b> (著しく保安上危険な建築物等の所有者等に対する勧告及び命令) 第10条 3 前項の規定による場合のほか, 特定行政庁は, 建築物の敷地, 構造又は建築設備(いずれも第3条第2項の規定により次章の規定又はこれに基づく命令若しくは条例の規定の適用を受けないものに限る。)が著しく保安上危険であり, 又は著しく衛生上有害であると認める場合においては, 当該建築物又はその敷地の所有者, 管理者又は占有者に対して, 相当の猶予期限を付けて, 当該建築物の除却, 移転, 改築, 増築, 修繕, 模様替, 使用禁止, 使用制限その他保安上又は衛生上必要な措置をとることを命ずることができる。  (工作物への準用) 第88条 3 第3条, 第8条から第11条まで, 第12条(第5項第3号を除く。), 第12条の2, 第12条の3, 第13条, 第15条の2並びに第18条第1項及び第25項の規定は, 第66条に規定する工作物について準用する。  <b>【基準】</b> 根拠条文に同じ。			
備考			
設定年月日	平成 28 年 4 月 1 日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 601

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	危害防止のための除却等措置命令(第9条第1項の準用)		
法令名 根拠条項	建築基準法 第90条第3項		
法令番号	昭和25年法律第201号		
【根拠条文】	<p>(違反建築物に対する措置)</p> <p>第9条 特定行政庁は、建築基準法令の規定又はこの法律の規定に基づく許可に付した条件に違反した建築物又は建築物の敷地については、当該建築物の建築主、当該建築物に関する工事の請負人(請負工事の下請人を含む。)若しくは現場管理者又は当該建築物若しくは建築物の敷地の所有者、管理者若しくは占有者に対して、当該工事の施工の停止を命じ、又は、相当の猶予期限を付けて、当該建築物の除却、移転、改築、増築、修繕、模様替、使用禁止、使用制限その他これらの規定又は条件に対する違反を是正するために必要な措置をとることを命ずることができる。</p> <p>(工事現場の危害の防止)</p> <p>第90条</p> <p>3 第3条第2項及び第3項、第9条(第13項及び第14項を除く。)、第9条の2、第9条の3(設計者及び宅地建物取引業者に係る部分を除く。)並びに第18条第1項及び第25項の規定は、第1項の工事の施工について準用する。</p> <p>【基準】</p> <p>根拠条文に同じ。</p>		
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 602

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	緊急時の使用禁止, 使用制限命令 (第9条第7項の準用)		
法令名 根拠条項	建築基準法 第90条第3項		
法令番号	昭和25年法律第201号		
【根拠条文】	<p>(違反建築物に対する措置)</p> <p>第9条</p> <p>7 特定行政庁は, 緊急の必要がある場合においては, 前5項の規定にかかわらず, これらに定める手続によらないで, 仮に, 使用禁止又は使用制限の命令をすることができる。</p> <p>(工事現場の危害の防止)</p> <p>第90条</p> <p>3 第3条第2項及び第3項, 第9条 (第13項及び第14項を除く。), 第9条の2, 第9条の3 (設計者及び宅地建物取引業者に係る部分を除く。) 並びに第18条第1項及び第25項の規定は, 第1項の工事の施工について準用する。</p>		
【基準】	根拠条文に同じ。		
備考			
設定年月日	平成 28 年 4 月 1 日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 603

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	危害防止のための工事停止命令(第9条第10項の準用)		
法令名 根拠条項	建築基準法 第90条第3項		
法令番号	昭和25年法律第201号		
<b>【根拠条文】</b> (違反建築物に対する措置) 第9条 10 特定行政庁は、建築基準法令の規定又はこの法律の規定に基づく許可に付した条件に違反することが明らかな建築、修繕又は模様替の工事中の建築物については、緊急の必要があつて第2項から第6項までに定める手続によることができない場合に限り、これらの手続によらないで、当該建築物の建築主又は当該工事の請負人(請負工事の下請人を含む。)若しくは現場管理者に対して、当該工事の施工の停止を命ずることができる。この場合において、これらの者が当該工事の現場にいないときは、当該工事に従事する者に対して、当該工事に係る作業の停止を命ずることができる。  (工事現場の危害の防止) 第90条 3 第3条第2項及び第3項、第9条(第13項及び第14項を除く。)、第9条の2、第9条の3(設計者及び宅地建物取引業者に係る部分を除く。)並びに第18条第1項及び第25項の規定は、第1項の工事の施工について準用する。  <b>【基準】</b> 根拠条文と同じ。			
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 604

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	工事中の特殊建築物に係る措置命令		
法令名 根拠条項	建築基準法 第90条の2第1項		
法令番号	昭和25年法律第201号		
【根拠条文】	<p>(工事中の特殊建築物等に対する措置)</p> <p>第90条の2 特定行政庁は、第9条又は第10条の規定による場合のほか、建築、修繕若しくは模様替又は除却の工事の施工中に使用されている第6条第1項第1号から第3号までの建築物が、安全上、防火上又は避難上著しく支障があると認める場合においては、当該建築物の建築主又は所有者、管理者若しくは占有者に対して、相当の猶予期限を付けて、当該建築物の使用禁止、使用制限その他安全上、防火上又は避難上必要な措置を採ることを命ずることができる。</p>		
【基準】	根拠条文に同じ。		
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日



ID: 605

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	緊急時の使用禁止, 使用制限命令 (第9条第7項の準用)		
法令名 根拠条項	建築基準法 第90条の2第2項		
法令番号	昭和25年法律第201号		
【根拠条文】	<p>(違反建築物に対する措置)</p> <p>第9条</p> <p>7 特定行政庁は, 緊急の必要がある場合においては, 前5項の規定にかかわらず, これらに定める手続によらないで, 仮に, 使用禁止又は使用制限の命令をすることができる。</p> <p>(工事中の特殊建築物等に対する措置)</p> <p>第90条の2</p> <p>2 第9条第2項から第9項まで及び第11項から第15項までの規定は, 前項の場合に準用する。</p>		
【基準】	根拠条文に同じ。		
備考			
設定年月日	平成 28 年 4 月 1 日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 948

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	認定事業者に対する改善命令		
法令名 根拠条項	建築物の耐震改修の促進に関する法律 第20条		
法令番号	平成7年法律第123号		
<b>【根拠条文】</b> (改善命令) 第20条 所管行政庁は、認定事業者が計画の認定を受けた計画に従って計画認定建築物の耐震改修を行っていないと認めるときは、当該認定事業者に対し、相当の期限を定めて、その改善に必要な措置をとるべきことを命ずることができる。  <b>【基準】</b> 根拠条文に同じ。			
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 949

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	建築物の耐震改修の計画の認定の取消し		
法令名 根拠条項	建築物の耐震改修の促進に関する法律 第21条		
法令番号	平成7年法律第123号		
【根拠条文】	<p>(計画の認定の取消し)</p> <p>第21条 所管行政庁は、認定事業者が前条の規定による処分に違反したときは、計画の認定を取り消すことができる。</p>		
【基準】	<p>根拠条文及び法第20条の規定による。</p> <p>(改善命令)</p> <p>第20条 所管行政庁は、認定事業者が計画の認定を受けた計画に従って計画認定建築物の耐震改修を行っていないと認めるときは、当該認定事業者に対し、相当の期限を定めて、その改善に必要な措置をとるべきことを命ずることができる。</p>		
備考			
設定年月日	平成 28 年 4 月 1 日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 1663

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	基準適合認定建築物に係る認定の取消し		
法令名 根拠条項	建築物の耐震改修の促進に関する法律 第23条		
法令番号	平成7年法律第123号		
【根拠条文】	<p>(基準適合認定建築物に係る認定の取消し)</p> <p>第23条 所管行政庁は、基準適合認定建築物が前条第2項の基準に適合しなくなったと認めるときは、同項の認定を取り消すことができる。</p>		
【基準】	<p>根拠条文に同じ。</p>		
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 5198

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	マンション建替事業の施行の促進を図るため必要な措置命令		
法令名 根拠条項	マンションの建替え等の円滑化に関する法律 第97条第2項		
法令番号	平成14年法律第78号		
<b>【根拠条文】</b> (報告, 勧告等) 第97条 都道府県知事又は市町村長は, 組合又は個人施行者に対し, その施行するマンション建替事業に関し, この法律(次章を除く。以下この節において同じ。)の施行のため必要な限度において, 報告若しくは資料の提出を求め, 又はその施行するマンション建替事業の円滑な施行を図るため必要な勧告, 助言若しくは援助をすることができる。 2 都道府県知事等は, 組合又は個人施行者に対し, マンション建替事業の施行の促進を図るため必要な措置を命ずることができる。  <b>【基準】</b> 根拠条文に同じ。			
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 5199

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	組合に対する監督処分
法令名称 根拠条項	マンションの建替え等の円滑化に関する法律 第98条第3項, 第4項及び第7項
法令番号	平成14年法律第78号
<b>【根拠条文】</b> (組合に対する監督) 第98条 都道府県知事等は、組合の施行するマンション建替事業につき、その事業又は会計がこの法律若しくはこれに基づく行政庁の処分又は定款、事業計画若しくは権利変換計画に違反すると認めるときその他監督上必要があるときは、その組合の事業又は会計の状況を検査することができる。 2 都道府県知事等は、組合の組合員が総組合員の10分の1以上の同意を得て、その組合の事業又は会計がこの法律若しくはこれに基づく行政庁の処分又は定款、事業計画若しくは権利変換計画に違反する疑いがあることを理由として組合の事業又は会計の状況の検査を請求したときは、その組合の事業又は会計の状況を検査しなければならない。 3 都道府県知事等は、前2項の規定により検査を行った場合において、組合の事業又は会計がこの法律若しくはこれに基づく行政庁の処分又は定款、事業計画若しくは権利変換計画に違反していると認めるときは、組合に対し、その違反を是正するため必要な限度において、組合のした処分の取消し、変更若しくは停止又は組合のした工事の中止若しくは変更その他必要な措置を命ずることができる。 4 都道府県知事等は、組合が前項の規定による命令に従わないとき、又は組合の設立についての認可を受けた者がその認可の公告があった日から起算して30日を経過してもなお総会を招集しないときは、権利変換期日前に限り、その組合についての設立の認可を取り消すことができる。 5 都道府県知事等は、第28条第3項の規定により組合員から総会の招集の請求があった場合において、理事長及び監事が総会を招集しないときは、これらの組合員の申出に基づき、総会を招集しなければならない。第31条第4項において準用する第28条第3項の規定により総代から総代会の招集の請求があった場合において、理事長及び監事が総代会を招集しないときも、同様とする。 6 都道府県知事等は、第23条第1項の規定により組合員から理事又は監事の解任の請求があった場合において、組合がこれを組合員の投票に付さないときは、これらの組合員の申出に基づき、これを組合員の投票に付さなければならない。第32条第3項において準用する第23条第1項の規定により、組合員から総代の解任の請求があった場合において、組合がこれを組合員の投票に付さないときも、同様とする。 7 都道府県知事等は、組合の組合員が総組合員の10分の1以上の同意を得て、総会若しく	

法適用不利益処分個票

は総大会の招集手続若しくは議決の方法又は役員若しくは総代の選挙若しくは解任の投票の方法が、この法律又は定款に違反することを理由として、その議決、選挙、当選又は解任の投票の取消しを請求した場合において、その違反の事実があると認めるときは、その議決、選挙、当選又は解任の投票を取り消すことができる。

**【基準】**

根拠条文に同じ。

備考

設定年月日

平成 28 年 4 月 1 日

最終変更年月日

年 月 日

ID: 5200

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	個人施行者に対する監督処分		
法令名 根拠条項	マンションの建替え等の円滑化に関する法律 第99条第1項及び第2項		
法令番号	平成14年法律第78号		
【根拠条文】	<p>(個人施行者に対する監督)</p> <p>第99条 都道府県知事等は、個人施行者の施行するマンション建替事業につき、その事業又は会計がこの法律若しくはこれに基づく行政庁の処分又は規準、規約、事業計画若しくは権利変換計画に違反すると認めるときその他監督上必要があるときは、その事業又は会計の状況を検査し、その結果、違反の事実があると認めるときは、その施行者に対し、その違反を是正するため必要な限度において、その施行者のした処分の取消し、変更若しくは停止又はその施行者のした工事の中止若しくは変更その他必要な措置を命ずることができる。</p> <p>2 都道府県知事等は、個人施行者が前項の規定による命令に従わないときは、権利変換期日前に限り、その施行者に対するマンション建替事業の施行についての認可を取り消すことができる。</p> <p>3 都道府県知事等は、前項の規定により認可を取り消したときは、遅滞なく、その旨を公告しなければならない。</p> <p>4 個人施行者は、前項の公告があるまでは、認可の取消しによるマンション建替事業の廃止をもって第三者に対抗することができない。</p>		
【基準】	根拠条文に同じ。		
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日



ID: 1703

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	措置命令等
法令名 根拠条項	マンションの建替え等の円滑化に関する法律 第161条第3項, 第4項及び第7項
法令番号	平成14年法律第78号
<b>【根拠条文】</b> (組合に対する監督) 第161条 都道府県知事等は、組合の実施するマンション敷地売却事業につき、その事業又は会計がこの法律若しくはこれに基づく行政庁の処分又は定款、資金計画若しくは分配金取得計画に違反すると認めるときその他監督上必要があるときは、その組合の事業又は会計の状況を検査することができる。 2 都道府県知事等は、組合の組合員が総組合員の10分の1以上の同意を得て、その組合の事業又は会計がこの法律若しくはこれに基づく行政庁の処分又は定款、資金計画若しくは分配金取得計画に違反する疑いがあることを理由として組合の事業又は会計の状況の検査を請求したときは、その組合の事業又は会計の状況を検査しなければならない。 3 都道府県知事等は、前2項の規定により検査を行った場合において、組合の事業又は会計がこの法律若しくはこれに基づく行政庁の処分又は定款、資金計画若しくは分配金取得計画に違反していると認めるときは、組合に対し、その違反を是正するため必要な限度において、組合のした処分の取消し、変更又は停止その他必要な措置を命ずることができる。 4 都道府県知事等は、組合が前項の規定による命令に従わないとき、又は組合の設立についての認可を受けた者がその認可の公告があった日から起算して30日を経過してもなお総会を招集しないときは、権利消滅期日前に限り、その組合についての設立の認可を取り消すことができる。 5 都道府県知事等は、第129条において準用する第28条第3項の規定により組合員から総会の招集の請求があった場合において、理事長及び監事が総会を招集しないときは、これらの組合員の申出に基づき、総会を招集しなければならない。第131条第4項において準用する第28条第3項の規定により総代から総代会の招集の請求があった場合において、理事長及び監事が総代会を招集しないときも、同様とする。 6 都道府県知事等は、第126条第3項において準用する第23条第1項の規定により組合員から理事又は監事の解任の請求があった場合において、組合がこれを組合員の投票に付さないときは、これらの組合員の申出に基づき、これを組合員の投票に付さなければならない。第132条第3項において準用する第23条第1項の規定により、組合員から総代の解任の請求があった場合において、組合がこれを組合員の投票に付さないときも、同様とする。	

7 都道府県知事等は、組合の組合員が総組合員の10分の1以上の同意を得て、総会若しくは総代会の招集手続若しくは議決の方法又は役員若しくは総代の選挙若しくは解任の投票の方法が、この法律又は定款に違反することを理由として、その議決、選挙、当選又は解任の投票の取消しを請求した場合において、その違反の事実があると認めるときは、その議決、選挙、当選又は解任の投票を取り消すことができる。

**【基準】**

根拠条文に同じ。

備考

設定年月日

平成 28 年 4 月 1 日

最終変更年月日

年 月 日

ID: 1536

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	改善命令		
法令名 根拠条項	長期優良住宅の普及の促進に関する法律 第13条		
法令番号	平成20年法律第87号		
【根拠条文】	<p>(改善命令)</p> <p>第13条 所管行政庁は、認定計画実施者が認定長期優良住宅建築等計画に従って認定長期優良住宅の建築及び維持保全を行っていないと認めるときは、当該認定計画実施者に対し、相当の期限を定めて、その改善に必要な措置を命ずることができる。</p> <p>2 所管行政庁は、認定計画実施者(第5条第3項の規定による認定の申請に基づき第6条第1項の認定を受けた分譲事業者に限る。)が認定長期優良住宅建築等計画に基づく建築に係る住宅の譲受人を決定せず、又はこれを決定したにもかかわらず、第9条第1項の規定による第8条第1項の変更の認定を申請していないと認めるときは、当該認定計画実施者に対し、相当の期限を定めて、その改善に必要な措置を命ずることができる。</p>		
【基準】	根拠条文に同じ。		
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 1537

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	計画の認定の取消し		
法令名 根拠条項	長期優良住宅の普及の促進に関する法律 第14条		
法令番号	平成20年法律第87号		
【根拠条文】	<p>(計画の認定の取消し)</p> <p>第14条 所管行政庁は、次に掲げる場合には、計画の認定を取り消すことができる。</p> <p>(1) 認定計画実施者が前条の規定による命令に違反したとき。</p> <p>(2) 認定計画実施者から認定長期優良住宅建築等計画に基づく住宅の建築又は維持保全を取りやめる旨の申出があったとき。</p> <p>2 所管行政庁は、前項の規定により計画の認定を取り消したときは、速やかに、その旨を当該認定計画実施者であった者(当該認定長期優良住宅建築等計画にその名称又は氏名が記載されていた管理組合等を含む。)に通知しなければならない。</p>		
【基準】	根拠条文に同じ。		
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 1780

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	特定建築物に係る基準適合命令		
法令名 根拠条項	建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律 第14条第1項		
法令番号	平成27年法律第53号		
<b>【根拠条文】</b> (特定建築物に係る基準適合命令等) 第14条 所管行政庁は、第11条第1項の規定に違反している事実があると認めるときは、建築主に対し、相当の期限を定めて、当該違反を是正するために必要な措置をとるべきことを命ずることができる。 2 国等の建築物については、前項の規定は、適用しない。この場合において、所管行政庁は、当該建築物が第11条第1項の規定に違反している事実があると認めるときは、直ちに、その旨を当該建築物に係る国等の機関の長に通知し、前項に規定する措置をとるべきことを要請しなければならない。			
<b>【基準】</b> 根拠条文に同じ。			
備考			
設定年月日	平成29年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 1781

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	住宅部分に係る指示に係る措置命令		
法令名 根拠条項	建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律 第16条第2項		
法令番号	平成27年法律第53号		
【根拠条文】	<p>(住宅部分に係る指示等)</p> <p>第16条 所管行政庁は、第12条第1項若しくは第2項の規定による建築物エネルギー消費性能確保計画の提出又は前条第3項の規定による建築物エネルギー消費性能確保計画の写しの送付を受けた場合において、当該建築物エネルギー消費性能確保計画(住宅部分に係る部分に限る。)が建築物エネルギー消費性能基準に適合せず、当該特定建築物のエネルギー消費性能の確保のため必要があると認めるときは、その工事の着手の日の前日までの間に限り、その提出者(同項の規定による建築物エネルギー消費性能確保計画の写しの送付を受けた場合にあつては、当該建築物エネルギー消費性能確保計画の提出者)に対し、当該建築物エネルギー消費性能確保計画の変更その他必要な措置をとるべきことを指示することができる。</p> <p>2 所管行政庁は、前項の規定による指示を受けた者が、正当な理由がなくてその指示に係る措置をとらなかつたときは、その者に対し、相当の期限を定めて、その指示に係る措置をとるべきことを命ずることができる。</p> <p>3 所管行政庁は、第13条第2項若しくは第3項の規定による建築物エネルギー消費性能確保計画の通知又は前条第3項の規定による建築物エネルギー消費性能確保計画の写しの送付を受けた場合において、当該建築物エネルギー消費性能確保計画(住宅部分に係る部分に限る。)が建築物エネルギー消費性能基準に適合せず、当該特定建築物のエネルギー消費性能の確保のため必要があると認めるときは、その必要な限度において、当該国等の機関の長に対し、当該特定建築物のエネルギー消費性能の確保のためとるべき措置について協議を求めることができる。</p> <p>【基準】 根拠条文に同じ。</p>		
備考			
設定年月日	平成29年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 1782

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	建築物の建築に関する届出の指示に係る措置命令
法令名 根拠条項	建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律 第19条第3項
法令番号	平成27年法律第53号
<b>【根拠条文】</b> (建築物の建築に関する届出等) 第19条 建築主は、次に掲げる行為をしようとするときは、その工事に着手する日の21日前までに、国土交通省令で定めるところにより、当該行為に係る建築物のエネルギー消費性能の確保のための構造及び設備に関する計画を所管行政庁に届け出なければならない。その変更(国土交通省令で定める軽微な変更を除く。)をしようとするときも、同様とする。 (1) 特定建築物以外の建築物であってエネルギー消費性能の確保を図る必要があるものとして政令で定める規模以上のものの新築 (2) 建築物の増築又は改築であってエネルギー消費性能の確保を図る必要があるものとして政令で定める規模以上のもの(特定建築行為に該当するものを除く。) 2 所管行政庁は、前項の規定による届出があった場合において、その届出に係る計画が建築物エネルギー消費性能基準に適合せず、当該建築物のエネルギー消費性能の確保のため必要があると認めるときは、その届出を受理した日から21日以内に限り、その届出をした者に対し、その届出に係る計画の変更その他必要な措置をとるべきことを指示することができる。 3 所管行政庁は、前項の規定による指示を受けた者が、正当な理由がなくてその指示に係る措置をとらなかつたときは、その者に対し、相当の期限を定めて、その指示に係る措置をとるべきことを命ずることができる。 4 建築主は、第1項の規定による届出に併せて、建築物エネルギー消費性能基準への適合性に関する審査であって第12条第1項の建築物エネルギー消費性能適合性判定に準ずるものとして国土交通省令で定めるものの結果を記載した書面を提出することができる。この場合において、第1項及び第2項の規定の適用については、第1項中「21日前」とあるのは「3日以上21日未満の範囲内で国土交通省令で定める日数前」と、第2項中「21日以内」とあるのは「前項の国土交通省令で定める日数以内」とする。 <b>【基準】</b> 根拠条文に同じ。	
備考	

法適用不利益処分個票

<b>設定年月日</b>	平成 29 年 4 月 1 日	<b>最終変更年月日</b>	令和 3 年 10 月 1 日



ID: 1775

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	認定建築主に対する改善命令		
法令名 根拠条項	建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律 第38条		
法令番号	平成27年法律第53号		
【根拠条文】	<p>(認定建築主に対する改善命令)</p> <p>第38条 所管行政庁は, 認定建築主が認定建築物エネルギー消費性能向上計画に従ってエネルギー消費性能の向上のための建築物の新築等を行っていないと認めるときは, 当該認定建築主に対し, 相当の期限を定めて, その改善に必要な措置をとるべきことを命ずることができる。</p>		
【基準】	<p>根拠条文に同じ。</p>		
備考			
設定年月日	平成 28 年 4 月 1 日	最終変更年月日	令和 3 年 10 月 1 日

ID: 1776

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	建築物エネルギー消費性能向上計画の認定の取消し		
法令名 根拠条項	建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律 第39条		
法令番号	平成27年法律第53号		
<b>【根拠条文】</b> (建築物エネルギー消費性能向上計画の認定の取消し) 第39条 所管行政庁は, 認定建築主が前条の規定による命令に違反したときは, 第35条第1項の認定を取り消すことができる。  <b>【基準】</b> 根拠条文に同じ。			
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	令和3年10月1日

ID: 1778

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	基準適合認定建築物に係る認定の取消し		
法令名 根拠条項	建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律 第42条		
法令番号	平成27年法律第53号		
【根拠条文】	<p>(基準適合認定建築物に係る認定の取消し)</p> <p>第42条 所管行政庁は、基準適合認定建築物が建築物エネルギー消費性能基準に適合しなくなったと認めるときは、前条第2項の認定を取り消すことができる。</p>		
【基準】	<p>根拠条文に同じ。</p>		
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	令和3年10月1日

ID: 5238

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	特定路外駐車場に係る基準適合命令		
法令名 根拠条項	高齢者, 障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律 第12条第3項		
法令番号	平成18年法律第91号		
【根拠条文】	<p>(特定路外駐車場に係る基準適合命令等)</p> <p>第12条 路外駐車場管理者等は, 特定路外駐車場を設置するときは, あらかじめ, 主務省令で定めるところにより, その旨を都道府県知事(市の区域内にあっては, 当該市の長。以下「知事等」という。)に届け出なければならない。ただし, 駐車場法第12条の規定による届出をしなければならない場合にあつては, 同条の規定により知事等に提出すべき届出書に主務省令で定める書面を添付して届け出たときは, この限りでない。</p> <p>2 前項本文の規定により届け出た事項を変更しようとするときも, 同項と同様とする。</p> <p>3 知事等は, 前条第1項から第3項までの規定に違反している事実があると認めるときは, 路外駐車場管理者等に対し, 当該違反を是正するために必要な措置をとるべきことを命ずることができる。</p>		
【基準】	根拠条文に同じ。		
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 1099

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	特別特定建築物に係る基準適合命令		
法令名 根拠条項	高齢者，障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律 第15条第1項		
法令番号	平成18年法律第91号		
<b>【根拠条文】</b> (特別特定建築物に係る基準適合命令等) 第15条 所管行政庁は，前条第1項から第3項までの規定に違反している事実があると認めるときは，建築主等に対し，当該違反を是正するために必要な措置をとるべきことを命ずることができる。			
<b>【基準】</b> 根拠条文に同じ。			
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 1102

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	認定建築主等に対する改善命令		
法令名 根拠条項	高齢者，障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律 第21条		
法令番号	平成18年法律第91号		
【根拠条文】	<p>(認定建築主等に対する改善命令)</p> <p>第21条 所管行政庁は，認定建築主等が第17条第3項の認定を受けた計画に従って認定特定建築物の建築等又は維持保全を行っていないと認めるときは，当該認定建築主等に対し，その改善に必要な措置をとるべきことを命ずることができる。</p>		
【基準】	<p>根拠条文に同じ。</p>		
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

ID: 1846

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	認定協定建築主等に対する改善命令(第21条の準用)
法令名 根拠条項	高齢者, 障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律 第22条の2第5項
法令番号	平成18年法律第91号
<p><b>【根拠条文】</b></p> <p>(協定建築物の建築等及び維持保全の計画の認定等)</p> <p>第22条の2 建築主等は, 次の各号のいずれかに該当する建築物特定施設(以下この条において「協定建築物特定施設」という。)と一体的に利用に供しなければ公共交通移動等円滑化基準に適合させることが構造上その他の理由により著しく困難であると主務省令で定めるところにより主務大臣が認める旅客施設(次の各号の公共交通事業者等の事業の用に供するものに限る。次項において「移動等円滑化困難旅客施設」という。)の敷地に隣接し, 又は近接する土地において協定建築物特定施設を有する建築物(以下「協定建築物」という。)の建築等をしようとするときは, 主務省令で定めるところにより, 協定建築物の建築等及び維持保全の計画を作成し, 所管行政庁の認定を申請することができる。</p> <p>(1) 建築主等が公共交通事業者等と締結する第41条第1項に規定する移動等円滑化経路協定の目的となる経路を構成する建築物特定施設</p> <p>(2) 建築主等が公共交通事業者等と締結する第51条の2第1項に規定する移動等円滑化施設協定の目的となる建築物特定施設</p> <p>2 前項の申請に係る協定建築物特定施設(協定建築物特定施設と移動等円滑化困難旅客施設との間に同項第1号の経路がある場合にあつては, 協定建築物特定施設及び当該経路を構成する一般交通用施設(以下この項において「特定経路施設」という。))は, 協定建築物特定施設等維持保全基準(移動等円滑化困難旅客施設の公共交通移動等円滑化基準への継続的な適合の確保のために必要な協定建築物特定施設及び特定経路施設の維持保全に関する主務省令で定める基準をいう。)に適合するものとして, 主務省令で定めるところにより主務大臣の認定を受けたものでなければならない。</p> <p>3 第1項の計画には, 次に掲げる事項を記載しなければならない。</p> <p>(1) 協定建築物の位置</p> <p>(2) 協定建築物の延べ面積, 構造方法及び用途並びに敷地面積</p> <p>(3) 計画に係る協定建築物特定施設の構造及び配置並びに維持保全に関する事項</p> <p>(4) 協定建築物の建築等の事業に関する資金計画</p> <p>(5) その他主務省令で定める事項</p> <p>4 所管行政庁は, 第1項の申請があつた場合において, 当該申請に係る協定建築物の建築等及び維持保全の計画が次に掲げる基準に適合すると認めるときは, 認定をすることができる。</p>	

<p>(1) 前項第3号に掲げる事項が、建築物移動等円滑化基準を超え、かつ、第17条第3項第1号に規定する主務省令で定める建築物特定施設の構造及び配置に関する基準に適合すること。</p> <p>(2) 前項第4号に掲げる資金計画が、協定建築物の建築等の事業を確実に遂行するため適切なものであること。</p> <p>5 第18条、第19条、第21条及び前条の規定は、前項の認定を受けた者(第53条第5項において「認定協定建築主等」という。)に係る当該認定を受けた計画について準用する。この場合において、第18条第2項中「前条」とあるのは「第22条の2第1項から第4項まで」と、第19条中「特定建築物(以下「認定特定建築物」という。)の建築物特定施設」とあるのは「第22条の2第1項に規定する協定建築物(第21条において「認定協定建築物」という。)の同項に規定する協定建築物特定施設」と、第21条中「認定特定建築物」とあるのは「認定協定建築物」と読み替えるものとする。</p> <p><b>【基準】</b>          準用規定法第21条の規定による。          (認定建築主等に対する改善命令)</p> <p>第21条 所管行政庁は、認定建築主等が第17条第3項の認定を受けた計画に従って認定特定建築物の建築等又は維持保全を行っていないと認めるときは、当該認定建築主等に対し、その改善に必要な措置をとるべきことを命ずることができる。</p>			
<p><b>備考</b></p>			
<p><b>設定年月日</b></p>	<p>平成31年4月1日</p>	<p><b>最終変更年月日</b></p>	<p>年 月 日</p>



ID: 1847

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	協定建築物の建築等及び維持保全の計画の認定の取消し(第22条の準用)
法令名 根拠条項	高齢者, 障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律 第22条の2第5項
法令番号	平成18年法律第91号
【根拠条文】	<p>(協定建築物の建築等及び維持保全の計画の認定等)</p> <p>第22条の2 建築主等は, 次の各号のいずれかに該当する建築物特定施設(以下この条において「協定建築物特定施設」という。)と一体的に利用に供しなければ公共交通移動等円滑化基準に適合させることが構造上その他の理由により著しく困難であると主務省令で定めるところにより主務大臣が認める旅客施設(次の各号の公共交通事業者等の事業の用に供するものに限る。次項において「移動等円滑化困難旅客施設」という。)の敷地に隣接し, 又は近接する土地において協定建築物特定施設を有する建築物(以下「協定建築物」という。)の建築等をしようとするときは, 主務省令で定めるところにより, 協定建築物の建築等及び維持保全の計画を作成し, 所管行政庁の認定を申請することができる。</p> <p>(1) 建築主等が公共交通事業者等と締結する第41条第1項に規定する移動等円滑化経路協定の目的となる経路を構成する建築物特定施設</p> <p>(2) 建築主等が公共交通事業者等と締結する第51条の2第1項に規定する移動等円滑化施設協定の目的となる建築物特定施設</p> <p>2 前項の申請に係る協定建築物特定施設(協定建築物特定施設と移動等円滑化困難旅客施設との間に同項第1号の経路がある場合にあつては, 協定建築物特定施設及び当該経路を構成する一般交通用施設(以下この項において「特定経路施設」という。))は, 協定建築物特定施設等維持保全基準(移動等円滑化困難旅客施設の公共交通移動等円滑化基準への継続的な適合の確保のために必要な協定建築物特定施設及び特定経路施設の維持保全に関する主務省令で定める基準をいう。)に適合するものとして, 主務省令で定めるところにより主務大臣の認定を受けたものでなければならない。</p> <p>3 第1項の計画には, 次に掲げる事項を記載しなければならない。</p> <p>(1) 協定建築物の位置</p> <p>(2) 協定建築物の延べ面積, 構造方法及び用途並びに敷地面積</p> <p>(3) 計画に係る協定建築物特定施設の構造及び配置並びに維持保全に関する事項</p> <p>(4) 協定建築物の建築等の事業に関する資金計画</p> <p>(5) その他主務省令で定める事項</p> <p>4 所管行政庁は, 第1項の申請があつた場合において, 当該申請に係る協定建築物の建築等及び維持保全の計画が次に掲げる基準に適合すると認めるときは, 認定をすることができる。</p>

<p>(1) 前項第3号に掲げる事項が、建築物移動等円滑化基準を超え、かつ、第17条第3項第1号に規定する主務省令で定める建築物特定施設の構造及び配置に関する基準に適合すること。</p> <p>(2) 前項第4号に掲げる資金計画が、協定建築物の建築等の事業を確実に遂行するため適切なものであること。</p> <p>5 第18条、第19条、第21条及び前条の規定は、前項の認定を受けた者(第53条第5項において「認定協定建築主等」という。)に係る当該認定を受けた計画について準用する。この場合において、第18条第2項中「前条」とあるのは「第22条の2第1項から第4項まで」と、第19条中「特定建築物(以下「認定特定建築物」という。)の建築物特定施設」とあるのは「第22条の2第1項に規定する協定建築物(第21条において「認定協定建築物」という。)の同項に規定する協定建築物特定施設」と、第21条中「認定特定建築物」とあるのは「認定協定建築物」と読み替えるものとする。</p> <p><b>【基準】</b>          準用規定法第22条の規定による。          (特定建築物の建築等及び維持保全の計画の認定の取消し)</p> <p>第22条 所管行政庁は、認定建築主等が前条の規定による処分に違反したときは、第17条第3項の認定を取り消すことができる。</p>			
<p><b>備考</b></p>			
<p><b>設定年月日</b></p>	<p>平成 31 年 4 月 1 日</p>	<p><b>最終変更年月日</b></p>	<p>年 月 日</p>

ID: 1103

担当部署: 都市建設部 建築指導課

処分の概要	特定建築物の建築等及び維持保全の計画の認定の取消し		
法令名 根拠条項	高齢者，障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律 第22条		
法令番号	平成18年法律第91号		
<b>【根拠条文】</b> (特定建築物の建築等及び維持保全の計画の認定の取消し) 第22条 所管行政庁は，認定建築主等が前条の規定による処分に違反したときは，第17条第3項の認定を取り消すことができる。  <b>【基準】</b> 根拠条文に同じ。			
備考			
設定年月日	平成28年4月1日	最終変更年月日	年 月 日

